

G—5 1920年代における家庭科教育について
—高等小学「家事科」独立後の問題を中心に
して—

別府大短大 坂本智恵子

1. この研究は、臨時教育会議以後の教育の改革を、女子教育・家庭科教育について明らかにしようとするものである。特に、高等小学における家事科独立（1919年）以後の、家事科教育の理論並びに実践上の問題を明らかにするものである。

2. 家庭科教育史研究の方法として、家庭科教育理論の歴史的発展、理論的継承関係を明らかにするだけでなく、それらを社会生活・家庭生活の歴史的変化と関連づけながら、また、実践上の問題と関連づけながら、歴史的に検証するという方法を追求した。教育史研究の成果に学びながら、家庭科教育に関する諸文献に現われた理論的・実践的な諸問題の歴史的意義づけを明らかにすることに重点をおきたい。

3. 1) 臨時教育会議以後の教育改革について。—特に、「女子教育ニ関スル件」の答申と、「教育ノ効果ヲ完カラシムヘキ一般施設ニ関スル建議」を中心にして。

2) 高等小学の家事科の独立について。

3) 家事科独立以後の家事科教授理論について。—人格主義と家事科教授、社会的要求と家事科教授、家事科教授と実験・実習等の問題を中心にして。

4) 家事科教授実践上の諸問題。—教科の編成、施設・設備、教科書等の諸問題。

以上により、家事科を「技能教科」として確立するための技術的な追求が具体的に進められたことについて報告する。